

T&D

平成30年3月期第2四半期(中間)決算のお知らせ

平成29年11月13日

株式会社T & Dホールディングス
(コード番号 8795 東証第一部)
太陽生命保険株式会社
大同生命保険株式会社
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社

T&D保険グループ決算の概況

1. 契約業績

- ・新契約年換算保険料は、貯蓄性商品の販売停止・抑制および料率改定の影響等により減少。
- ・なお、太陽生命の認知症治療保険、大同生命の就業不能保障商品等の第三分野の主力商品は堅調に推移し、T&Dフィナンシャル生命は一時払商品・平準払商品ともに大幅に伸展。
- ・第三分野保有契約年換算保険料は、前年度末から増加。

2. グループ連結損益

- ・経常収益は、保険料等収入の減少等により前年同期から減少。
- ・親会社株主に帰属する中間純利益は、金融派生商品費用の増加等による経常利益の減少等を要因とし、前年同期から減少。
- ・なお、連結主要収支は、概ね通期業績予想に沿った進捗。

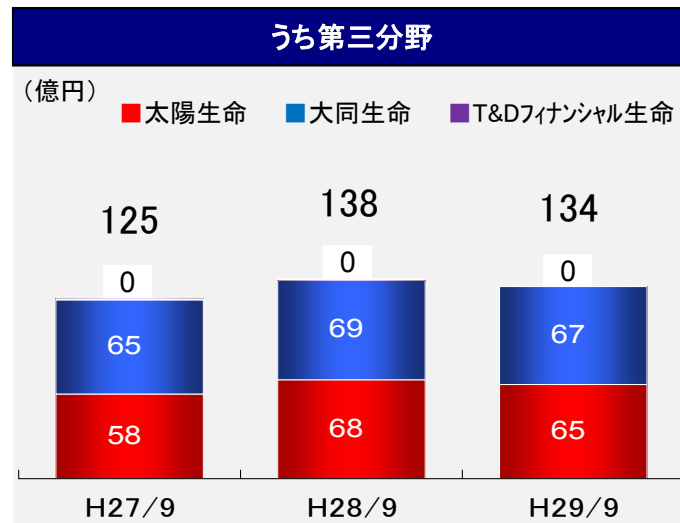
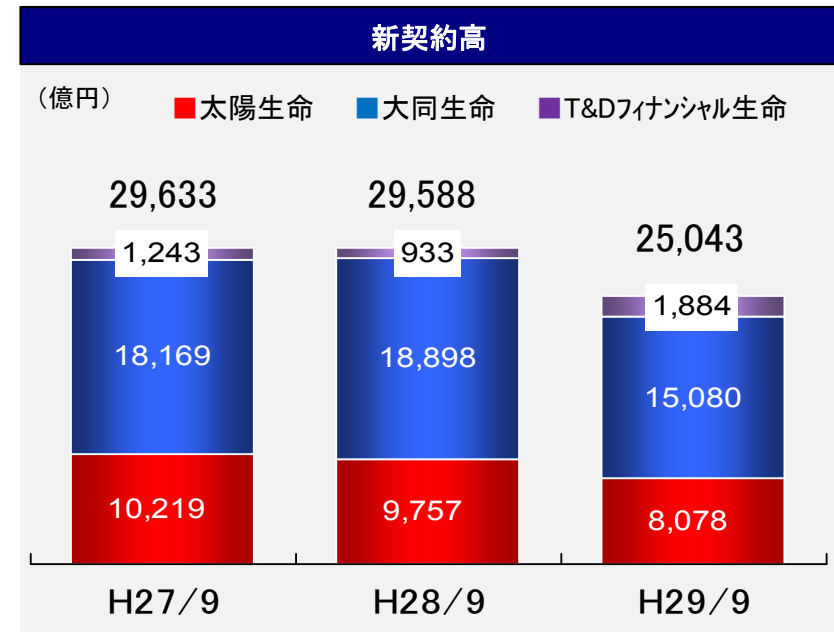
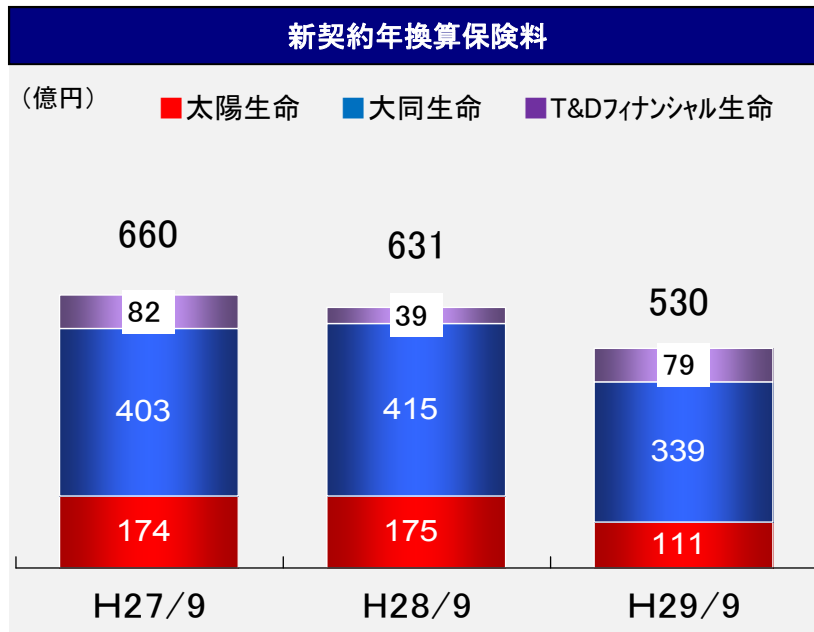
3. Group MCEV

- ・Group MCEVは、新契約価値の積み上げや有価証券含み益の増加等により増加し、過去最高を更新。
- ・新契約価値は、第三分野の主力商品の着実な販売や国内金利の上昇等により増加し、半期ベースで過去最高を更新。

4. 通期業績予想・株主配当

- ・通期業績予想および1株当たり年間配当金予想の修正はありません。なお、中間配当は1株当たり17.5円の予定。

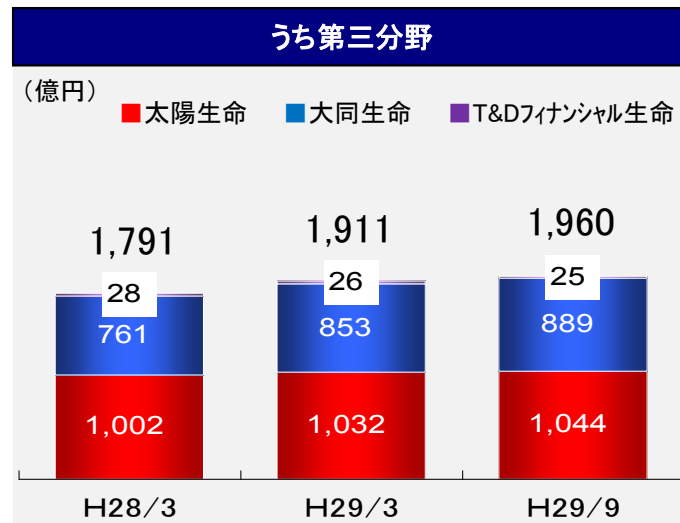
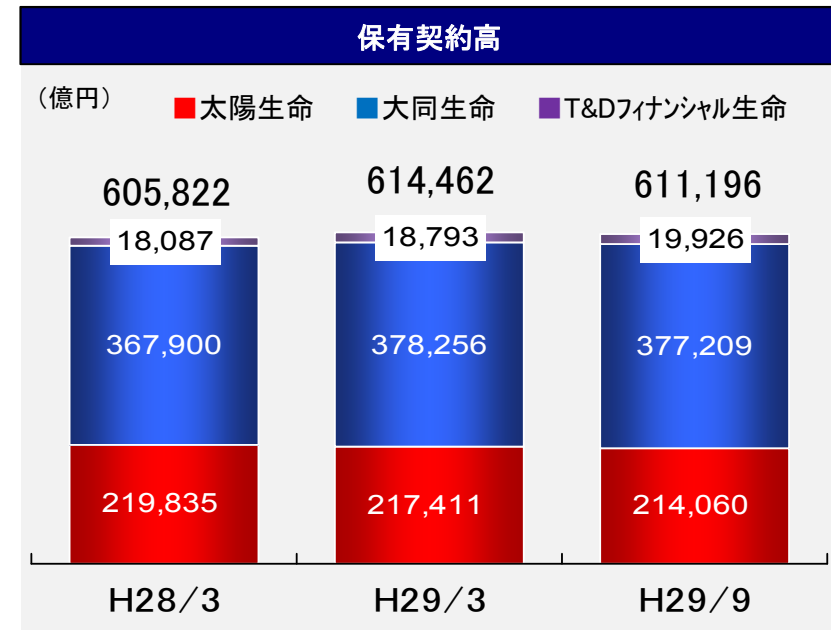
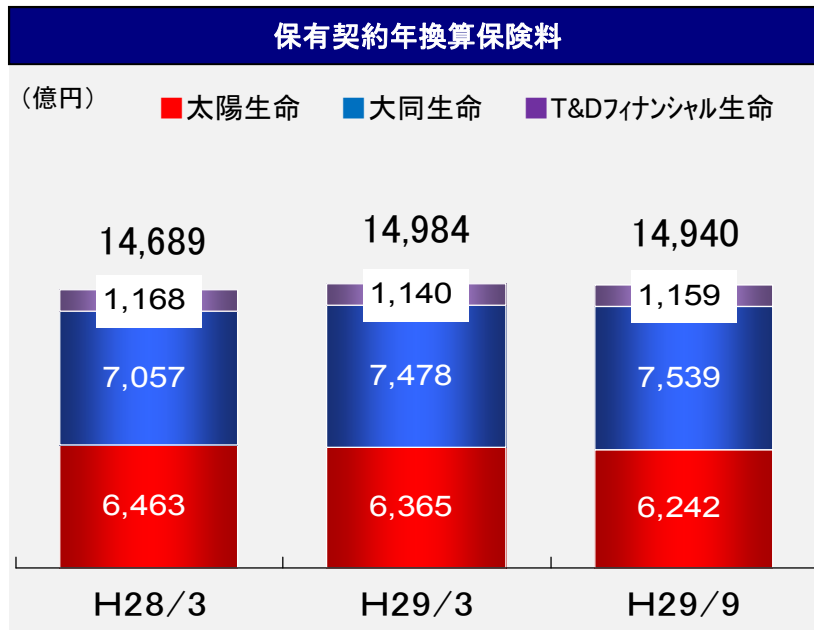
T&D保険グループ決算の概況(新契約の状況:個人保険・個人年金保険)



- 新契約年換算保険料は530億円、前年同期から15.9%の減少。これは主に、貯蓄性商品の販売停止・抑制および料率改定の影響等による。
- うち医療保障・生前給付保障等の第三分野は134億円、前年同期から2.8%の減少。
- 新契約高は2兆5,043億円、前年同期から15.4%の減少。これは主に、料率改定の影響等による。

大同生命の「Jタイプ(無配当重大疾病保障保険)」の重大疾病保険金額、「Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)」の就業障がい保険金額および「介護リリース(無配当終身介護保障保険)」の介護保険金額を加算した新契約高は3社合算で2兆9,884億円、前年同期から11.7%の減少。

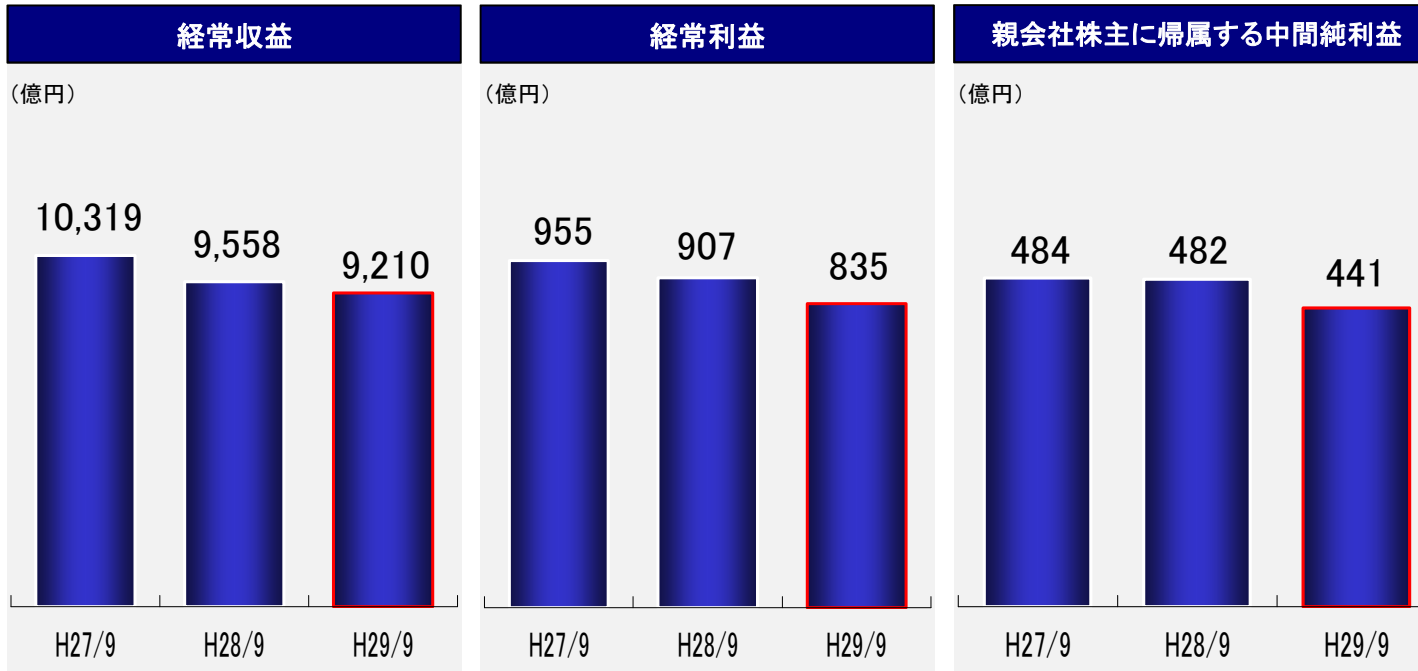
T&D保険グループ決算の概況(保有契約の状況:個人保険・個人年金保険)



- 保有契約年換算保険料は1兆4,940億円、前年度末から0.3%の減少。
- うち第三分野は1,960億円、前年度末から2.5%の増加。
- 保有契約高は61兆1,196億円、前年度末から0.5%の減少。

大同生命の「Jタイプ(無配当重大疾病保障保険)」の重大疾病保険金額、「Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)」の就業障がい保険金額および「介護リリース(無配当終身介護保障保険)」の介護保険金額を加算した保有契約高は3社合算で64兆6,505億円、前年度末から0.1%の増加。

T&D保険グループ決算の概況(連結損益)



- 経常収益は9,210億円、前年同期から3.6%の減少。これは主に、貯蓄性商品の販売停止・抑制により保険料等収入が減少したこと等による。
- 親会社株主に帰属する中間純利益は441億円、前年同期から8.5%の減少。これは主に、金融派生商品費用※の増加等により経常利益が減少したこと等による。
- なお、連結主要収支は、概ね通期業績予想に沿った進捗。

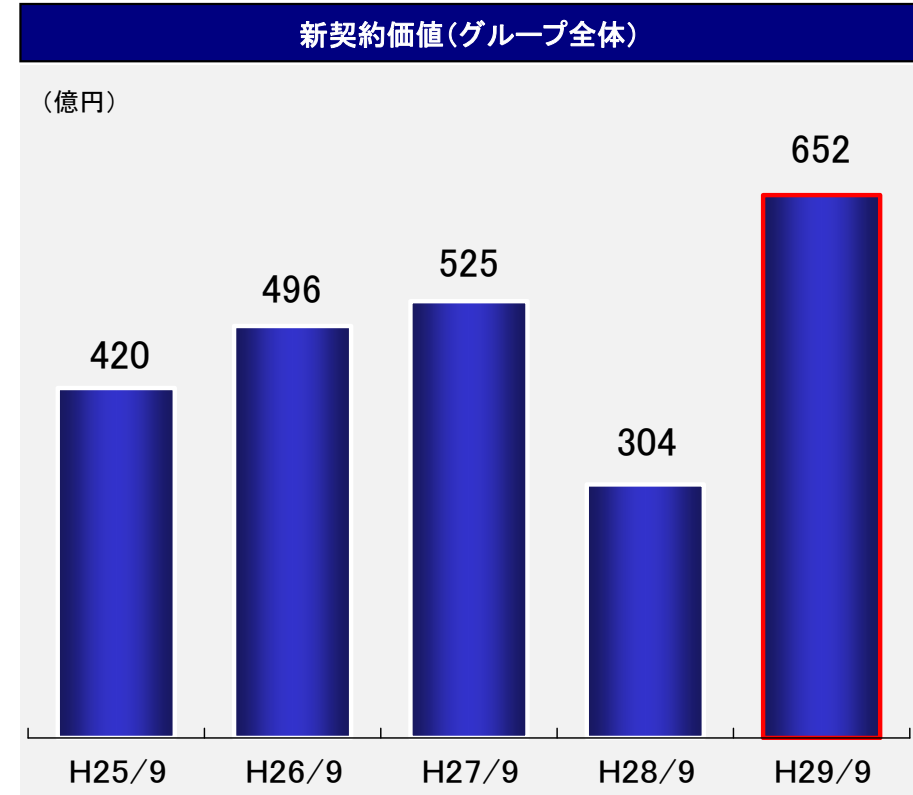
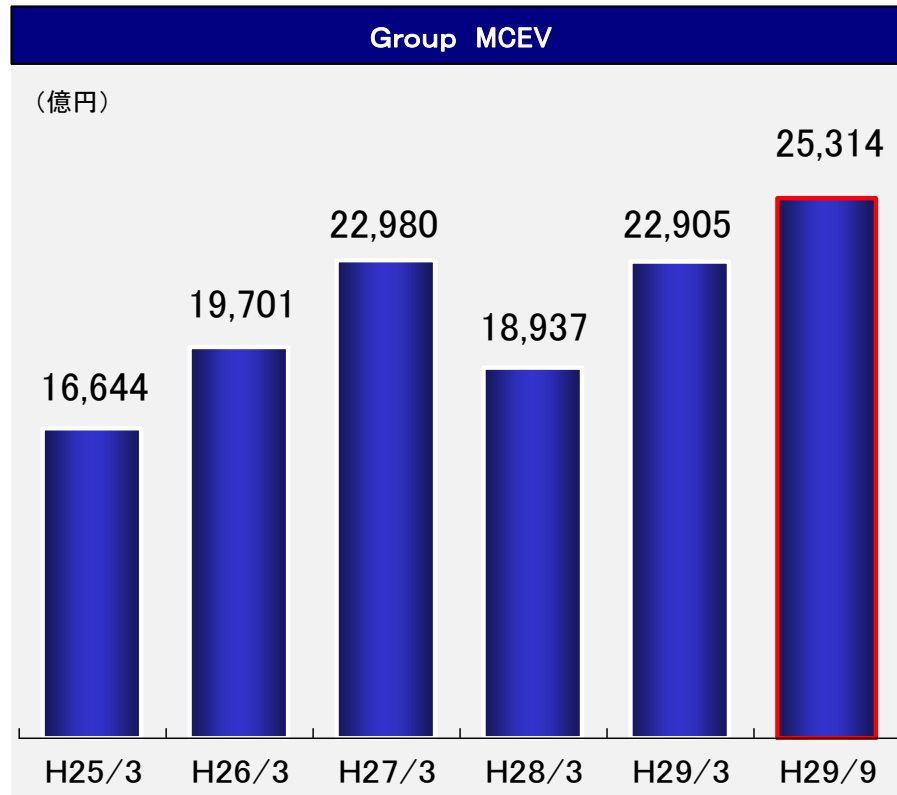
※ 金融派生商品費用の具体的な金額は、平成30年3月期第2四半期(中間期)決算短信添付資料のP4をご参照下さい。

(単位: 億円)

	T&Dホールディングス連結	
	当第2四半期累計	前年同期比
経常収益	9,210	△ 348 (△ 3.6%)
うち保険料等収入	6,902	△ 427 (△ 5.8%)
うち資産運用収益	1,945	+52 (+2.8%)
うち利息及び配当金等収入	1,405	+70 (+5.3%)
うちその他経常収益	361	+26 (+8.0%)
経常費用	8,374	△ 275 (△ 3.2%)
うち保険金等支払金	5,807	△ 41 (△ 0.7%)
うち責任準備金等繰入額	795	△ 80 (△ 9.2%)
うち資産運用費用	432	△ 154 (△ 26.3%)
うちその他経常費用	317	△ 35 (△ 10.1%)
経常利益	835	△ 72 (△ 7.9%)
特別利益	0	△ 2 (△ 95.7%)
特別損失	74	△ 80 (△ 51.9%)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入額)	137	△ 21 (△ 13.6%)
税金等調整前中間純利益	623	+27 (+4.6%)
法人税等合計	182	+69 (+61.7%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	441	△ 41 (△ 8.5%)

* 保険料等収入の3社合算は6,881億円(前年同期比△5.9%)です。

T&D保険グループ決算の概況(市場整合的エンベディッド・バリュー：MCEV[概算値])



* 生命保険会社の企業価値を評価する指標の一つ「EV(エンベディッド・バリュー)」は、「貸借対照表の純資産に、価格変動準備金・危険準備金等の内部留保、時価評価されていない資産の含み損益等を加えた純資産価値」と「現時点で保有している契約から将来見込まれる利益の現在価値」を合計したものです。

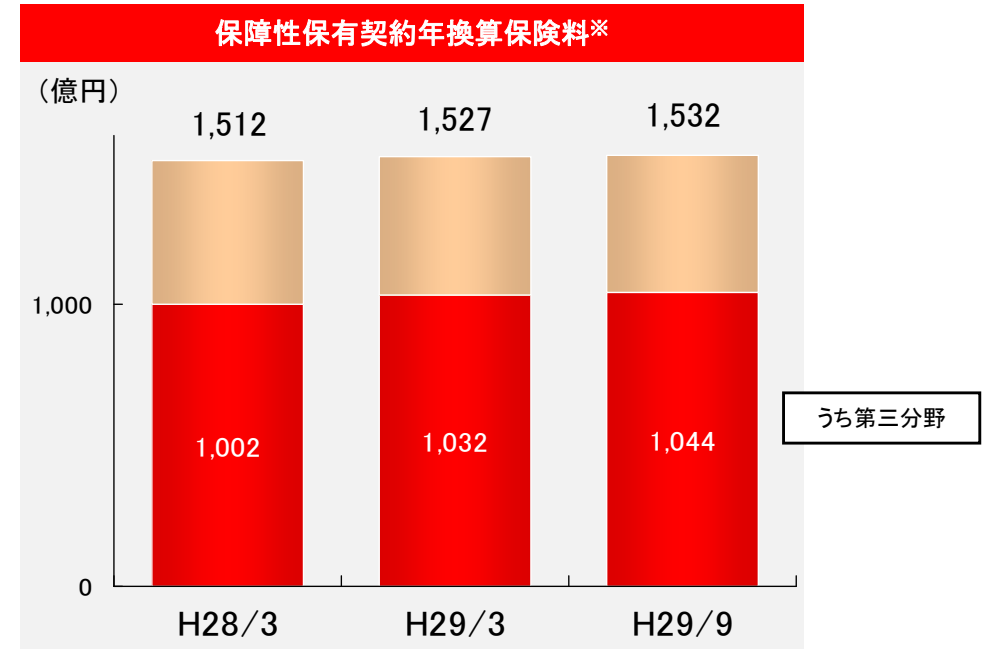
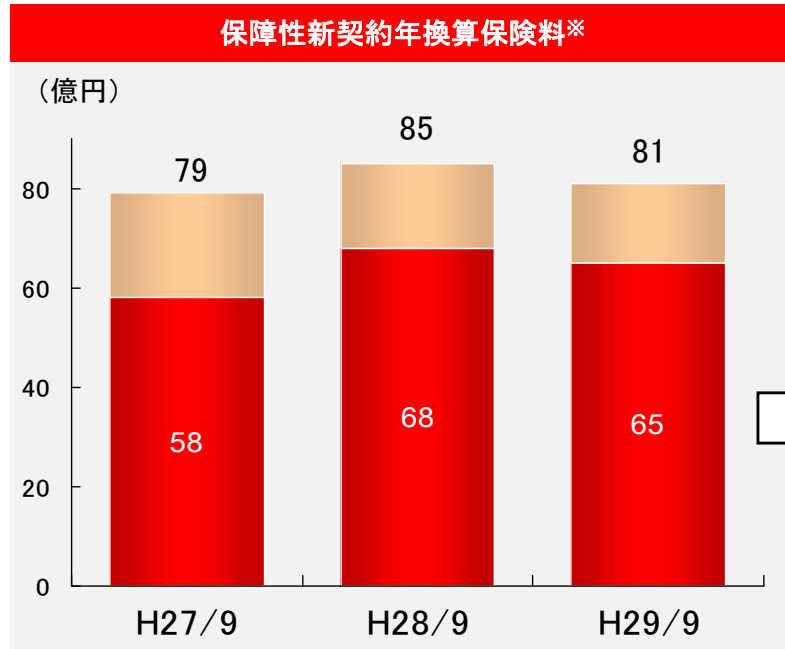
* 新契約価値は、当年度中に販売した新契約(転換契約を含む)の価値を表したものです。

- Group MCEVは2兆5,314億円、前年度末から2,408億円増加し過去最高を更新。これは主に、新契約価値の積み上げや有価証券含み益の増加等による。
- 新契約価値は652億円、半期ベースで過去最高を更新。これは主に、第三分野の主力商品の着実な販売や国内金利の上昇等による。

* 四半期の数値は、一部簡易な計算前提等を用いて計算し、第三者の検証を受けていない概算値となります。

【中核生保の主要ポイントと状況(太陽生命)】

- シニアにニーズの高い「ひまわり認知症治療保険」の販売が好調。



- 保障性的新契約年換算保険料※は、前年同期から5.2%の減少。昨年3月より販売している「ひまわり認知症治療保険」は前年同期を下回ったものの、今期も堅調に推移。
- 保障性的保有契約年換算保険料※は1,532億円、前年度末から0.4%の増加。

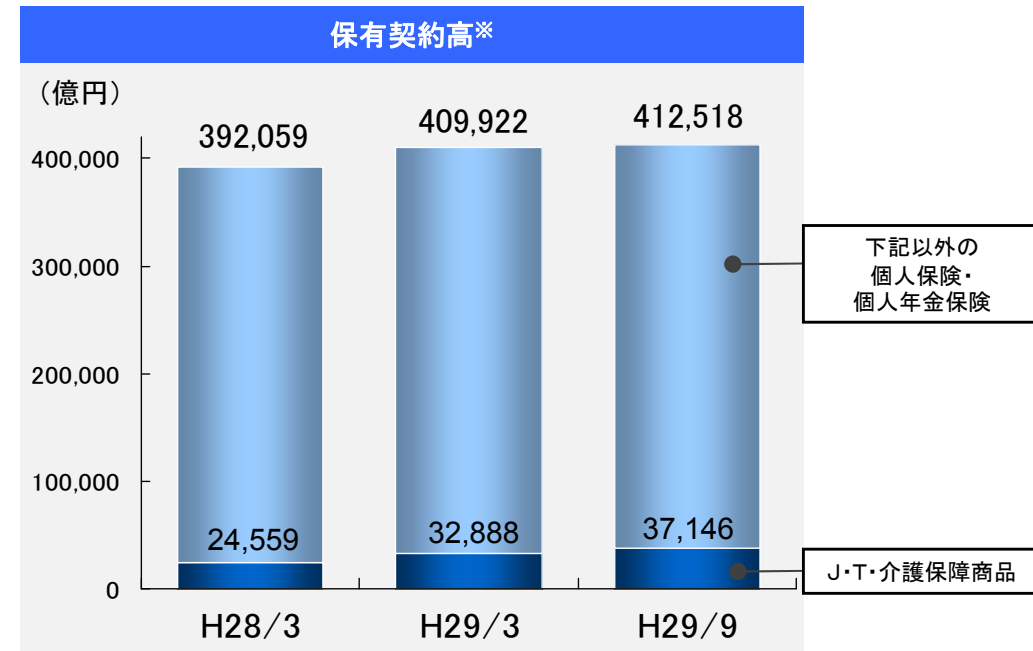
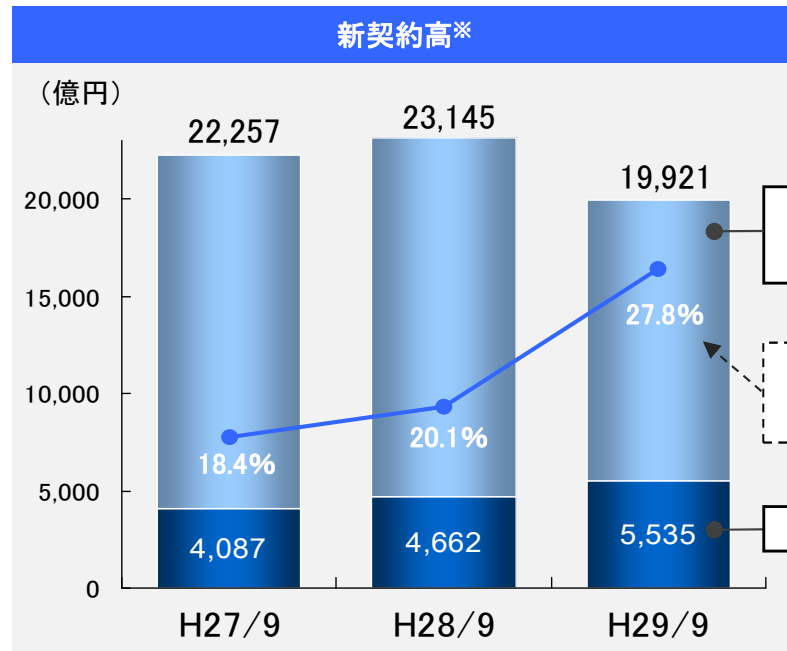
※ 保障性的年換算保険料(太陽生命独自の指標)とは、年換算保険料のうち主に貯蓄系商品を除いた保険料の合計です。

※ 保障性的年換算保険料の伸展は「EVの伸展」に大きく寄与するため、太陽生命が契約業績の中で重視する指標としています。

- ・ 平成28年3月に発売したシニアにニーズの高い「ひまわり認知症治療保険」の販売が好調。「ひまわり認知症治療保険」と「認知症治療保険」合計の累計販売件数は25万件を超過(平成29年9月末時点)。
- ・ 平成28年4月に開始した「かけつけ隊サービス※」の利用件数は3万件を超過(平成29年9月末時点)。
 ※ シニアのお客さまが安心、便利に給付のお手続きができるよう、専門知識のある内務員が直接お客さまやご家族のもとへ訪問し、お手続きサポートを行うサービス。
- ・ 平成29年7月から太陽生命としては初となる外貨建商品(通貨指定型一時払個人年金保険)を発売し、取扱金融機関を順次拡大。

【中核生保の主要ポイントと状況(大同生命)】

- 就業不能保障商品ならびに介護保障商品は着実に伸展。保有契約高※は過去最高を更新。



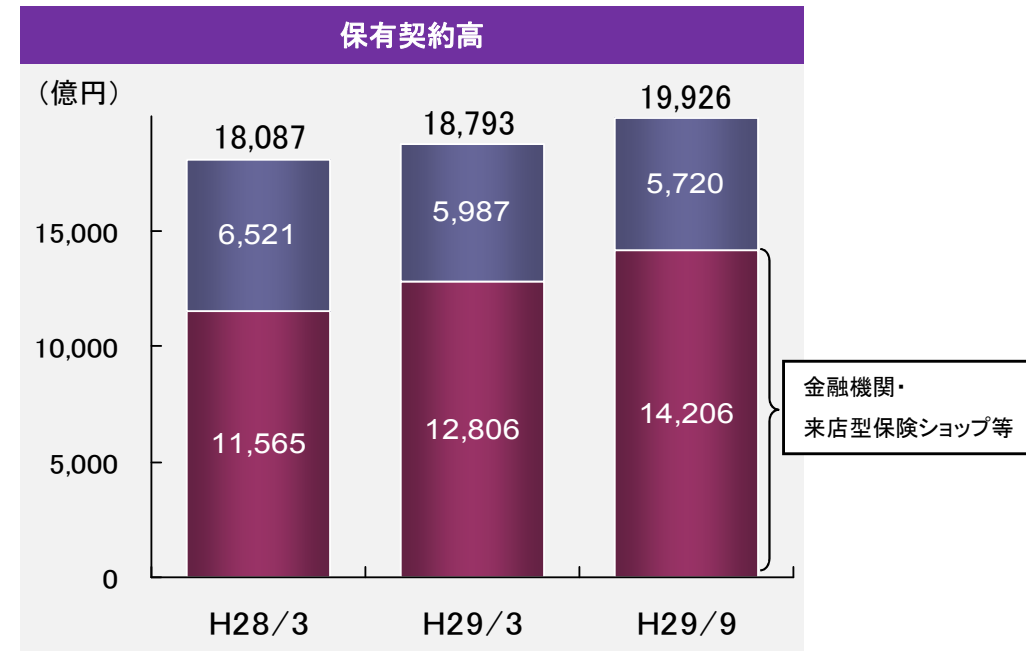
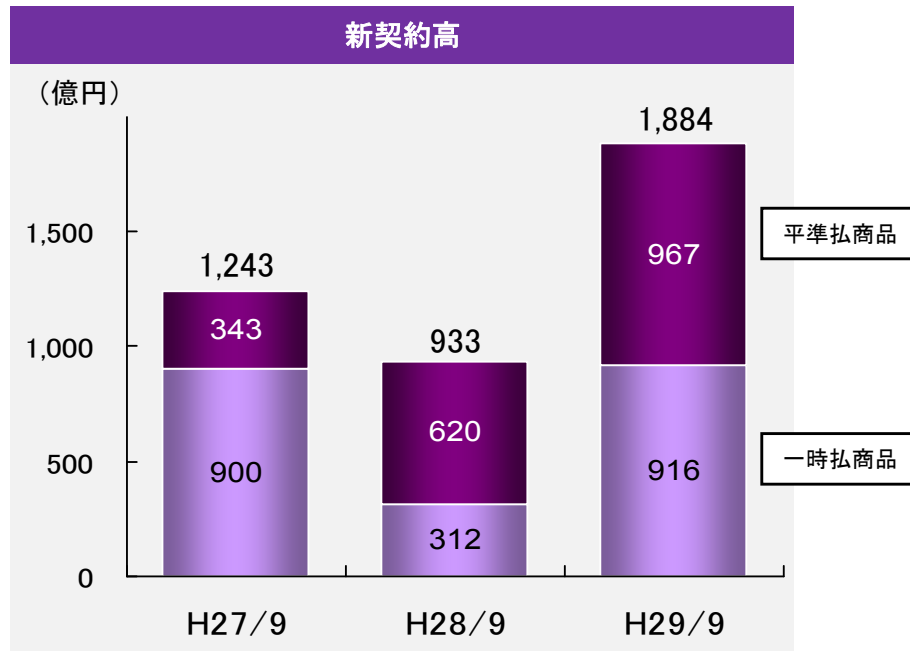
- 新契約高※は1兆9,921億円、前年同期から13.9%の減少。これは主に、4月の料率改定の影響等により、個人定期保険Lタイプの契約高が減少したことによる。
- 就業不能保障商品(Jタイプ・Tタイプ)ならびに介護保障商品(介護リリース・収入リリース)の新契約高は5,535億円と着実に伸展し、前年同期から18.7%の増加。
- 保有契約高※は引き続き伸展し41兆2,518億円と過去最高を更新、前年度末から0.6%の増加。

※ 個人保険・個人年金保険の契約高に、死亡保障がないJタイプ(無配当重大疾病保障保険)の重大疾病保険金額、Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)の就業障がい保険金額、介護リリース(無配当終身介護保障保険)の介護保険金額を加算した金額ベース。

- ・ 企業に必要な保障に基づいて、死亡保障に加え、就業不能保障を含めた「トータルな保障のご提案活動」を推進。また、経営者の個人保障として介護保障の推進を強化。

【中核生保の主要ポイントと状況(T&Dフィナンシャル生命)】

- 一時払商品「生涯プレミアムワールド4」、平準払商品「家計にやさしい収入保障」の販売が好調。



- 新契約高は1,884億円、前年同期から一時払商品は2.9倍、平準払商品は1.6倍。
- 保有契約高は1兆9,926億円、一時払商品・平準払商品とも販売好調により、前年度末から6.0%の増加。

- ・ 平成29年5月から契約年齢範囲を拡大した一時払終身保険「生涯プレミアムワールド4」「生涯プレミアムジャパン4」の投入効果により一時払商品の新契約高は前年同期から192.9%の増加。
- ・ 平準払商品「家計にやさしい収入保障」の販売は引き続き好調に推移し、同商品の新契約高は前年同期から88.9%の増加。
- ・ 「商品ラインアップの多様化」「代理店販売網の拡大」「お客さまサービスの向上」を推進していく。

参考データ(契約業績:個人保険・個人年金保険)

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
保有契約年換算保険料	14,940	△ 44 (△ 0.3%)	6,242	△ 123 (△ 1.9%)	7,539	+61 (+0.8%)	1,159	+18 (+1.6%)
うち第三分野	1,960	+48 (+2.5%)	1,044	+12 (+1.2%)	889	+35 (+4.2%)	25	△ 0 (△ 0.9%)
保有契約高	611,196	△ 3,265 (△ 0.5%)	214,060	△ 3,351 (△ 1.5%)	377,209	△ 1,046 (△ 0.3%)	19,926	+1,132 (+6.0%)

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
新契約年換算保険料	530	△ 100 (△ 15.9%)	111	△ 63 (△ 36.3%)	339	△ 76 (△ 18.5%)	79	+40 (+100.8%)
うち第三分野	134	△ 3 (△ 2.8%)	65	△ 2 (△ 3.6%)	67	△ 2 (△ 3.0%)	0	+0 (+318.1%)
新契約高	25,043	△ 4,545 (△ 15.4%)	8,078	△ 1,679 (△ 17.2%)	15,080	△ 3,817 (△ 20.2%)	1,884	+950 (+101.9%)

* 新契約には、転換による純増加を含んでおります。

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
解約失効率(契約高ベース)			2.81%	0.06ポイント低下	3.19%	0.05ポイント低下	1.73%	0.30ポイント上昇
解約失効高	18,524	+39 (+0.2%)	6,114	△ 193 (△ 3.1%)	12,085	+166 (+1.4%)	325	+65 (+25.4%)

* 解約失効率は、年換算しておりません。

参考データ(損益関係)

(単位:億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
経常収益	9,210	△ 348 (△ 3.6%)	3,822	△ 387 (△ 9.2%)	4,828	+121 (+2.6%)	1,222	+318 (+35.2%)
うち保険料等収入	6,902	△ 427 (△ 5.8%)	2,014	△ 1,075 (△ 34.8%)	3,884	+72 (+1.9%)	982	+571 (+138.8%)
うち資産運用収益	1,945	+52 (+2.8%)	934	△ 147 (△ 13.7%)	816	+57 (+7.5%)	203	+132 (+184.4%)
うち 利息及び配当金等収入	1,405	+70 (+5.3%)	673	+0 (+0.0%)	703	+70 (+11.2%)	37	△ 0 (△ 1.5%)
うちその他経常収益	361	+26 (+8.0%)	873	+835 (-)	128	△ 8 (△ 5.9%)	35	△ 384 (△ 91.5%)
経常費用	8,374	△ 275 (△ 3.2%)	3,448	△ 364 (△ 9.6%)	4,387	+118 (+2.8%)	1,209	+371 (+44.4%)
うち保険金等支払金	5,807	△ 41 (△ 0.7%)	2,697	△ 37 (△ 1.4%)	2,449	+27 (+1.1%)	650	△ 33 (△ 4.9%)
うち責任準備金等繰入額	795	△ 80 (△ 9.2%)	0	△ 236 (△ 100.0%)	1,105	+88 (+8.7%)	481	+481 (-)
うち資産運用費用	432	△ 154 (△ 26.3%)	221	△ 71 (△ 24.5%)	206	△ 6 (△ 2.8%)	5	△ 88 (△ 94.2%)
うちその他経常費用	317	△ 35 (△ 10.1%)	145	△ 23 (△ 13.8%)	98	△ 0 (△ 0.1%)	8	+1 (+19.4%)
経常利益	835	△ 72 (△ 7.9%)	374	△ 23 (△ 5.9%)	441	+3 (+0.8%)	12	△ 53 (△ 80.6%)
特別利益	0	△ 2 (△ 95.7%)	-	△ 2 (-)	0	+0 (-)	-	- (-)
特別損失	74	△ 80 (△ 51.9%)	17	△ 74 (△ 81.0%)	55	△ 6 (△ 10.8%)	1	+0 (+64.7%)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入額)	137	△ 21 (△ 13.6%)	75	△ 13 (△ 15.5%)	61	△ 7 (△ 11.0%)	△ 0	+0 (-)
税金等調整前中間純利益	623	+27 (+4.6%)	280	+62 (+28.8%)	325	+18 (+6.0%)	10	△ 54 (△ 83.2%)
法人税等合計	182	+69 (+61.7%)	80	+45 (+133.1%)	95	+34 (+56.4%)	3	△ 12 (△ 80.4%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	441	△ 41 (△ 8.5%)	200	+16 (+9.3%)	229	△ 15 (△ 6.5%)	7	△ 41 (△ 84.1%)

* 1 T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の合算とは必ずしも一致いたしません。

* 2 保険料等収入の3社合算は6,881億円(前年同期比△5.9%)です。

* 3 特別損失(74億円)のうち、72億円は価格変動準備金への繰入(太陽生命:15億円、大同生命:54億円、T&Dフィナンシャル生命:1億円)です。

* 4 税金等調整前中間純利益の生命保険会社3社欄の数値は、税引前中間純利益を記載しております。

* 5 親会社株主に帰属する中間純利益の生命保険会社3社欄の数値は、中間純利益を記載しております。

参考データ(その他の指標等)

■ 基礎利益と順ざや額

(単位: 億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
基礎利益	825	+92 (+12.7%)	304	+57 (+23.3%)	525	+32 (+6.6%)	△ 5	+2 (-)
(上段) 当期基準比較		△ 37 (△ 4.3%)		+57 (+23.3%)		+32 (+6.6%)		△ 127 (-)
順ざや額(△逆ざや額)	200	+107 (+115.6%)	42	+28 (+203.7%)	169	+74 (+79.1%)	△ 12	+3 (-)

* 基礎利益は、前年同期と算出基準*が異なります。表上段の前年同期比は、前年同期の基礎利益を当期基準で算出した数値との比較です。

※ 当期基礎利益は、外貨建・外貨連動型商品の負債に係る市場為替レート変動に伴う損益および、MVA(マーケット・バリュー・アジャストメント)に係る解約返戻金額変動に伴う損益を控除しております。

■ ソルベンシー・マージン比率と実質純資産

	T&Dホールディングス		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	/	/	783.3%	65.3ポイント低下	1,253.1%	0.5ポイント上昇	1,301.0%	5.4ポイント上昇
連結ソルベンシー・マージン比率	1,059.6%	45.5ポイント低下	790.7%	66.9ポイント低下	1,260.7%	0.6ポイント低下	/	/

* T&Dフィナンシャル生命は、子会社等がないため、連結ソルベンシー・マージン比率を表示しておりません。

(単位: 億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
実質純資産	27,135	+1,209	10,686	+332	14,258	+713	1,848	△ 31

参考データ(その他の指標等)

■ 有価証券等の差損益(一般勘定)

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
有価証券の差損益	12,447	+816	5,948	+323	5,558	+532	939	△ 39
うち公社債	7,233	△ 131	3,580	△ 42	3,008	△ 64	645	△ 24
うち株式	3,361	+500	1,389	+201	1,971	+298	-	-
うち外国証券	971	+310	723	+113	245	+197	1	+0
土地等の差損益	603	+1	223	+0	380	+1	-	-

* 1 有価証券の差損益は、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。

* 2 土地等の差損益は、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格等)をもとに算出しております。

■ 市場整合的エンベディッド・バリュー(MCEV) [概算値]

* 四半期の数値は、一部簡易な計算前提等を用いて計算し、第三者の検証を受けていない概算値となります。

(単位:億円)

	T&D保険グループ全体 (Group MCEV)		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
MCEV	25,314	+2,408	8,432	+656	15,690	+1,515	1,027	+52

* Group MCEVは「生命保険事業のMCEV(2兆5,039億円)」と「生命保険以外の事業に係る純資産(274億円)」の合計額です。

(単位:億円)

	T&D保険グループ全体 (3社合算)		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
新契約価値	652	+347	166	+31	463	+285	22	+31

平成30年3月期 通期業績予想

■ T&Dホールディングス連結

平成29年5月15日公表分から変更ありません。

(単位:億円)

	平成29年3月期実績	平成30年3月期予想
経常収益	19,757	19,000 程度
経常利益	1,572	1,500 程度
親会社株主に帰属する 当期純利益	751	740 程度

	平成29年3月期実績	平成30年3月期予想
1株当たり年間配当金	32.5円(うち中間配当15円)	35円(うち中間配当17.5円)

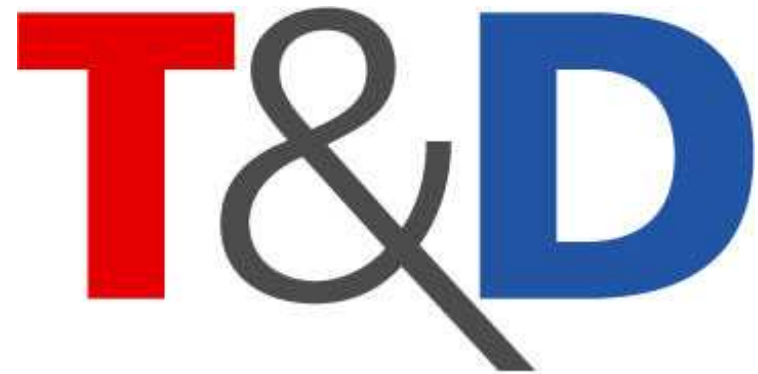
なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成30年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位:億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	7,700 程度	9,700 程度	2,200 程度
経常利益	620 程度	860 程度	10 程度
当期純利益	290 程度	440 程度	0 程度

* 連結と生命保険会社3社合計との差額は、3社以外の連結子会社ならびに連結会社相互間の調整等によるものです。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。



T&D保険グループ

【お問合せ先】

株式会社T&Dホールディングス	広報部 川俣・勝呂	TEL 03-3272-6115
太陽生命保険株式会社	広報課 松島	TEL 03-3272-6406
大同生命保険株式会社	広報課 平本	TEL 03-3272-6206
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課 高橋	TEL 03-6745-6808